

# リユース食器の灯を 消さない

## スペースふうの 存続にご支援を!

クラウドファンディング  
Readyfor

支援募集期間

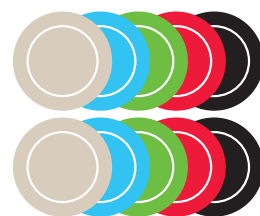
8月6日(木)~  
9月28日(月)  
午後11:00まで

### クラウドファンディングにチャレンジしています

クラウドファンディング (crowdfunding) とは群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語で、インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみです。



## 「存続」か「廃業」か スペースふう始まって以来の危機



老朽化が進んだ食器洗浄機を買い替えるために、身の程知らずの1000万円という借金をしたのが、今年の1月のこと。「さあ、これから!」というときにコロナウイルスに襲われました。イベントはすべて中止。スペースふうは開店休業状態が続いています。「存続」か「廃業」か、今スペースふうは窮地に立たされています。リユース食器による「脱 使い捨て社会」実現のためにも、スペースふうを持続させねばなりません。生き残りをかけて踏ん張るスペースふうに、皆さまのお力をお貸しください。お願いいたします!!



クラウドファンディング  
目標金額 **200万円**

目標金額を達成した場合のみ、スペースふうは集まった支援金を受け取ることができます (All-or-Nothing 方式)。

### ご支援方法

1 READYFORのプロジェクトページにアクセスします。

スペースふうのプロジェクトページへは右のQRコード、もしくは下記のURLからアクセスできます。



2 READYFOR のアカウントを作成します。

READYFOR での支援がはじめてのかたはアカウント作成をお願いします (無料)。

3 支払方法を登録します。

クレジットカードまたは銀行振込のどちらかを選択し、手続きを行ってください。  
※ただし、支援方法がわからない方は、スペースふうスタッフへお知らせください。

4 支援いただくことで「寄附金の控除を受けられる受領証明書」と「報告書」を受け取ることができます。

スペースふうは認定NPO法人なので、確定申告することで、税制優遇を受けることができます。目標金額達成後、受領証明書を郵送いたします。

スペースふう  
プロジェクトページ

<https://readyfor.jp/projects/helpspacefuu>



## スペースふうのスタートはリサイクルから

NPO 法人スペースふうは 1999 年 9 月、山梨県増穂町（現・富士川町）の女性たち 10 人が集まり、地域活性化と女性の経済的自立を目指し、小さなリサイクルショップ「スペースふう」を共同出資のもとに立ち上げました。

スペースふうは、環境・福祉・教育・文化を 4 本の柱に、情報発信と人々の出会いを大切にコミュニティ・ビジネスを実践し、多くの人に親しまれてきました。

## 全国で初めて リユース食器レンタル事業をスタート

そして 2002 年、私たちのメインプロジェクトとなったリユース食器（洗って何度でも使える）のレンタル事業への転換を試行。2003 年には本格稼働に踏み切り現在に至っています。現在、保有するリユース食器の在庫数は約 20 万個、年間レンタル件数は約 500 件以上に達しています。

1999 年	女性たち 10 人が集まり小さなリサイクルショップ「スペースふう」を共同出資のもとに立ち上げ。地域活性化と女性の経済的自立を目指す
2002 年	NPO 法人格取得
2003 年	リユース食器レンタル事業本格スタート
2004 年	ヴァンフォーレ甲府ホームゲームに本格導入
2006 年	リユース食器「ふうネット」設立
2008 年	リーマンショック
2011 年	東日本大震災
2015 年	認定NPO法人格取得

2020 年  
コロナショック

**2020 年 存続の危機を乗り越えるべく、クラウドファンディングに挑戦します！**

## スペースふうを応援します！



**萩原 なつ子 様**  
立教大学教授  
経済産業省助成  
事業・審査委員

「リユース食器で社会の仕組みを変えたいのです。」永井さんの熱く、使命感を帯びたプレゼンテーションを聞いたのは、霞が関の経済産業省の会議室。「スペースふう」は第 1 回コミュニティ・ビジネス推進事業の助成対象に選定され、日本初のリユース食器貸し出し事業を山梨から展開し、全国に普及させました。まさに「元祖」です。SDGs 達成のために「元祖」の力はますます重要となっています。みなさまのご支援をお待ちしています！



**長澤 重俊 様**  
(株) はくばく  
代表取締役社長

今でこそ環境問題への意識は徐々に高まっていますが、スペースふうが活動を始めたのは今から約 20 年前のこと。そんな時代に数人の「使い捨て食器はおかしい！」という熱い気持ちだけで立ち上げ、その後降りかかる幾多の試練をその情熱で乗り越えてきたスペースふう。当社も微力ながらこの団体を当初から支援してきました。そんな本物の NPO をこのコロナ禍で潰れさせるわけにはいきません。この団体は正にこれからの時代にこそ活躍すべきなのです。どうか皆様のご理解と温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



**伊藤 洋 様**  
山梨県立大学 元学長

ウィルスは太古の昔から彼の宿主と共生し共栄しながら生きてきました。コロナウィルスはコウモリを宿主として長い間共棲してきたのに、頼みの宿主が住処を追われ彼にとって死活問題となりました。その主因は乱開発による環境破壊です。環境破壊を防ぐためのリユース食器運動を創始してきた「スペースふう」がコロナウィルスによってコウモリと共に苦境に立っている。自然史の大矛盾です。この矛盾を解放すること、それこそがパンデミックを防ぐ第一歩です。



**箕浦 一哉 様**  
山梨県立大学  
国際政策学部教授

リユース食器レンタル事業は、私たちにとってかけがえのない「インフラ」です。このインフラがなければイベント主催者は使い捨て食器を使うしかありません。このしくみの構築と維持は簡単なことではありませんが、それを熱い思いで成し遂げてきたのがスペースふうです。環境にやさしいイベント開催を望むすべての私たちがこのインフラの受益者であり、みんなで支えていくべき活動だといえるでしょう。多くの方々ที่支援してくださることを期待しています。



**有賀 みゆき 様**  
「スペースふう」  
元スタッフ

リユース食器を通して「ゴミを出さない」大切さに気が付き、行動するキッカケを作ってきたスペースふう。その先にはいつも「循環型社会の実現」という強い思いがありました。イベントができない今の状況でも、そのメッセージの発信を絶対に止めないでほしいです！子供をもつ親として、使い捨てではなく「リユース」が当たり前前の社会を子供たちに伝えたいからです。スペースふうの思いと活動が続いていくことを強く願っています！



**中井 八千代 様**  
容器包装の 3R を進める  
全国ネットワーク運営委員長

私たちが、安価で軽量、便利なものとして大量に使用しているプラスチック製品は、不用になると大半がごみとなり、ポイ捨てされるものも後を絶たず、風に飛ばされて川から海に運ばれ、深刻な海洋汚染を引き起こしています。「スペースふう」は、大量の使い捨てプラスチックごみを減らすために、いち早くお祭りやイベント等でのリユース食器の貸し出し事業に取り組み、SDGs の目標にもある「廃棄物の発生を大幅に削減する」を実践してきました。2R(リデュース・リユース)をともに進めてきた仲間として「スペースふう」の活動を応援します。